別紙

◆　中央都税事務所長賞　◆

「日本の医療」

中央区立銀座中学校　３年　中村　咲南

税という言葉を聞いて、私はあることを思い出した。私は小学５年生の冬から２年半、父の仕事の都合で、日本を離れイギリスで暮らしていた。初めは慣れない環境の中、体調を崩してしまうことが多かった。日本に住んでいたころは軽い風邪だと分かっていても病院に行き薬をもらっていたが、「ここは医療費が高いから市販の薬を買って様子を見よう」と母に言われ、病院に行くことは少なくなった。病院に行ったのはおそらくコロナウイルスのワクチンを打った時ぐらいだ。母は私に「日本は保険がきくから子供の医療費はかからないんだよ」と説明したが、もっと詳しく知りたかったのでインターネットで調べてみた。

日本がイギリスなどの欧米と比べて安い料金で病院にかかることができるのは国民健康保険という制度があるからだと分かった。この制度のおかげで治療費の７割を国が税金で負担してくれている。しかも、私が住んでいる東京都中央区では、子ども医療費助成により保険適用にかかる自己負担分が自己負担なしで診療や調剤を受けることができる。これが母が言っていた「子供は医療費がかからない」ということだと分かった。

次に、イギリスの医療制度について詳しく調べた。イギリスにはプライベート医療サービスとＮＨＳと呼ばれる公的な医療サービスがある。プライベート医療サービスの病院は待ち時間が少なく便利だが医療費は高額になる。一方ＮＨＳは税金で運営されており、医療機関を受診する場合、医療費がかからない。しかし、病気にかかったらまずＧＰと呼ばれる総合診療医を受診することになるため、病院が慢性的に混雑している。また、市販薬で対処可能な症状については薬が処方されずに薬局で薬剤師に相談するよう指示される場合もある。他のデメリットとして、ＮＨＳの歯科は極めて予約が取りにくく、行える治療内容にも多くの制約がある。確かに一時帰国で日本に帰ってきた際、歯医者にクリーニングに行ったのを覚えている。母は日本で歯医者に行く方が簡単だと知っていたのだろう。

何となく体感していたことが詳しく調べることによってより理解を深めることができた。医療以外の面でも、私たちがどれだけ税の恩恵を受けて生活しているかは計り知れない。日本社会の基盤を支える税を払っている日本国民や、制度全体に深く感謝したいと思った。